

第5次粕屋町総合計画
後期基本計画策定に係る
基礎調査報告書

目次

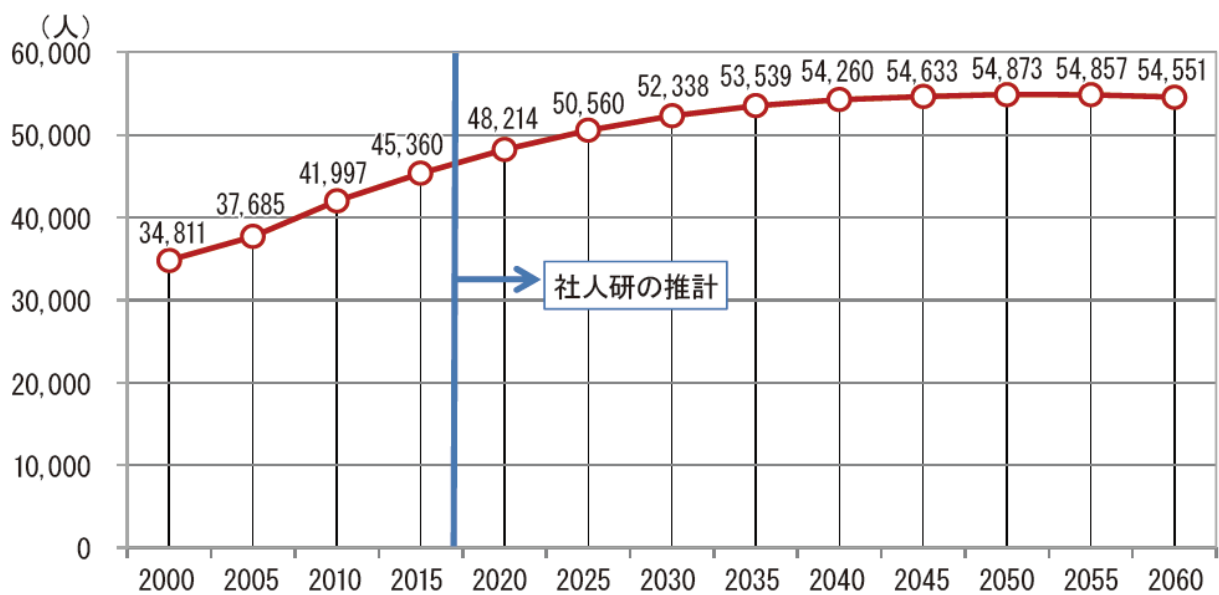
1. 人口動向	1
(1) 総人口と将来推計	1
(2) 世帯数の推移	2
(3) 年齢3区分人口の推移と将来推計	3
(4) 出生・死亡、転入・転出の推移	4
(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減・社会増減の影響	7
(6) 合計特殊出生率の推移	8
(7) 年齢階級別の人口移動の状況	9
(8) 市町村別の人口移動の状況（2010年から2015年にかけての5年間）	10
(9) 性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況	11
(10) 年齢階級別の人口移動の状況の長期動向	12
2. 産業・経済動向	13
(1) 粕屋町の産業人口及び生産性	13
(2) 粕屋町と他市町村間の通勤流動	17
(3) 町民の所得状況	18
3. 生活環境	20
(1) 道路交通	20
(2) 衛生	23
(3) 都市公園	24
(4) 安全（防犯・交通安全・防災）	25
4. 教育	28
(1) 学校教育	28
5. 保育・福祉・医療等	30
(1) 保育	30
(2) 福祉	31
(3) 医療	33
(4) 生活保護	34
6. 財政	35
(1) 財政状況	35

1. 人口動向

(1) 総人口と将来推計

- 本町の総人口（年度末の住民基本台帳人口）は2007（平成 19）年に 40,000 人に達した後、さらに増加し、2017（平成 29）年には 47,000 人に達しました。今後、全国的には人口減少、少子高齢化傾向にあるものの、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の人口推計においても、2025（令和 7）年に 50,000 人を越えると推計されるなど増加傾向となっており、本町の人口は、引き続き増加していくことが予想されます。

■総人口の推移と将来推計



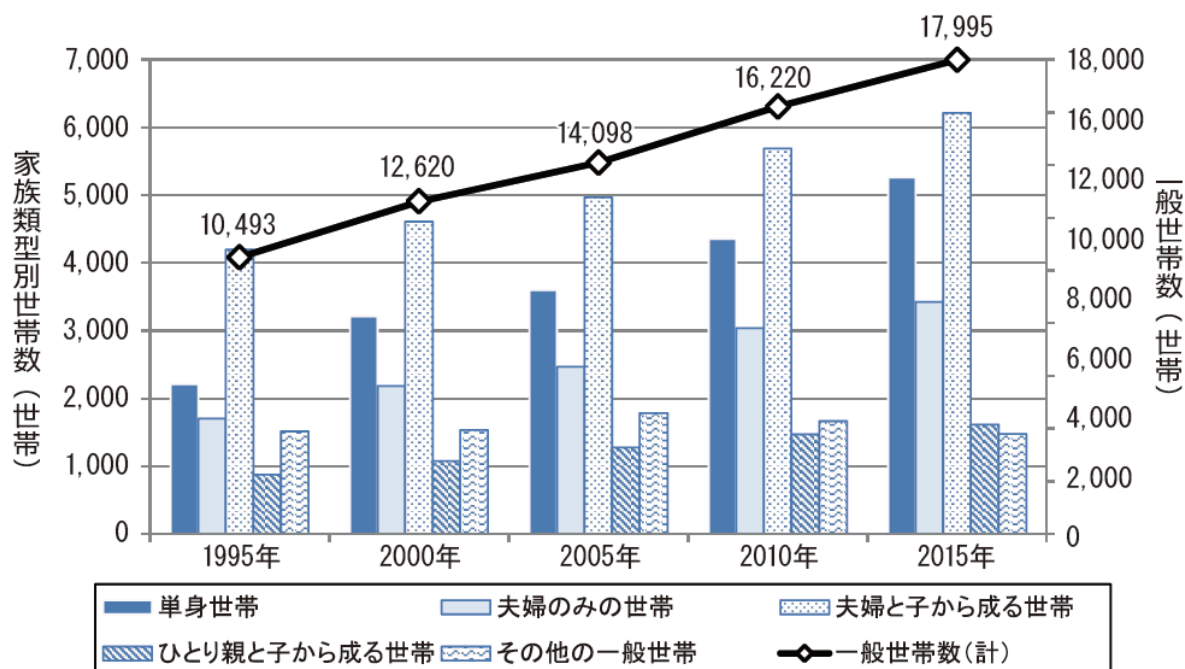
【資料】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※2020（令和 2）年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（2019（令和元）年 6 月公表）に基づく推計値。

(2) 世帯数の推移

- 一般世帯数は年々増加しており、2015（平成27）年（国勢調査）では、17,995世帯となっています。家族類型別の世帯数でみると、「単身世帯」と「夫婦と子から成る世帯」が特に増加していることから、単身で働いている若い世代と、若い子育て世代による増加が考えられます。

■ 家族類型毎の世帯数の推移

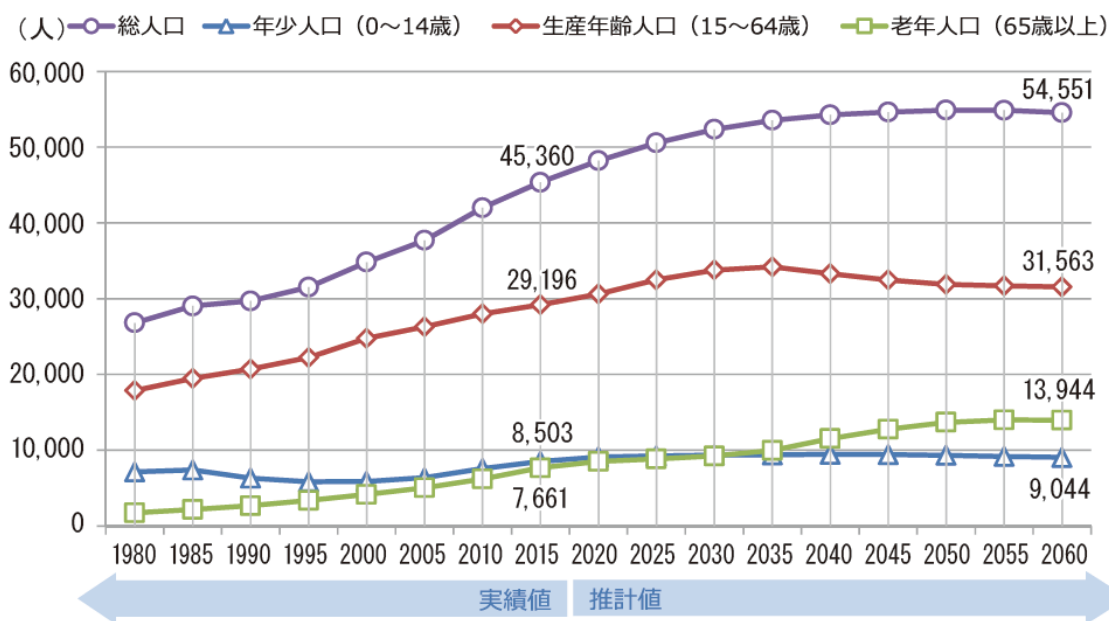


【資料】総務省「国勢調査」

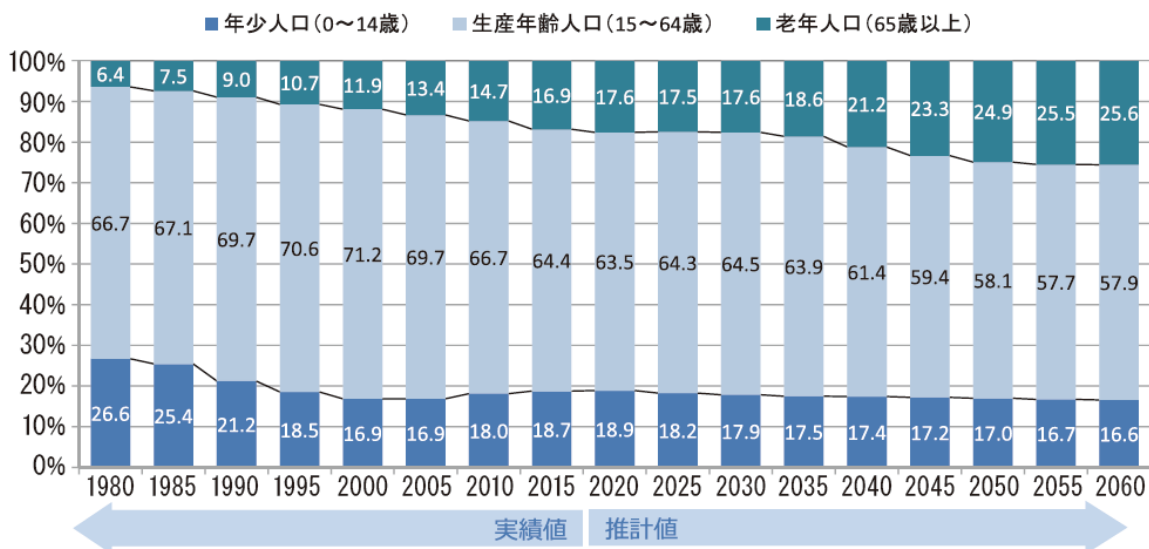
(3) 年齢3区分人口の推移と将来推計

- 本町では総人口の伸びに比例して、生産年齢人口も一貫して増加を続けています。
- 年少人口についても、微増傾向を続けており、将来推計でも同様の傾向が続くと推計されています。
- 老年人口については年少人口の増加率を上回るかたちで増加を続け 2030（令和 12）年から年少人口を上回ると推計されています。2040（令和 22）年には高齢化率が 20%を超えると予測され、本町でも確実に高齢化が進むことが予測されています。

■年齢3区分別人口数の実績値と推計値



■年齢3区分別人口割合の実績値と推計値



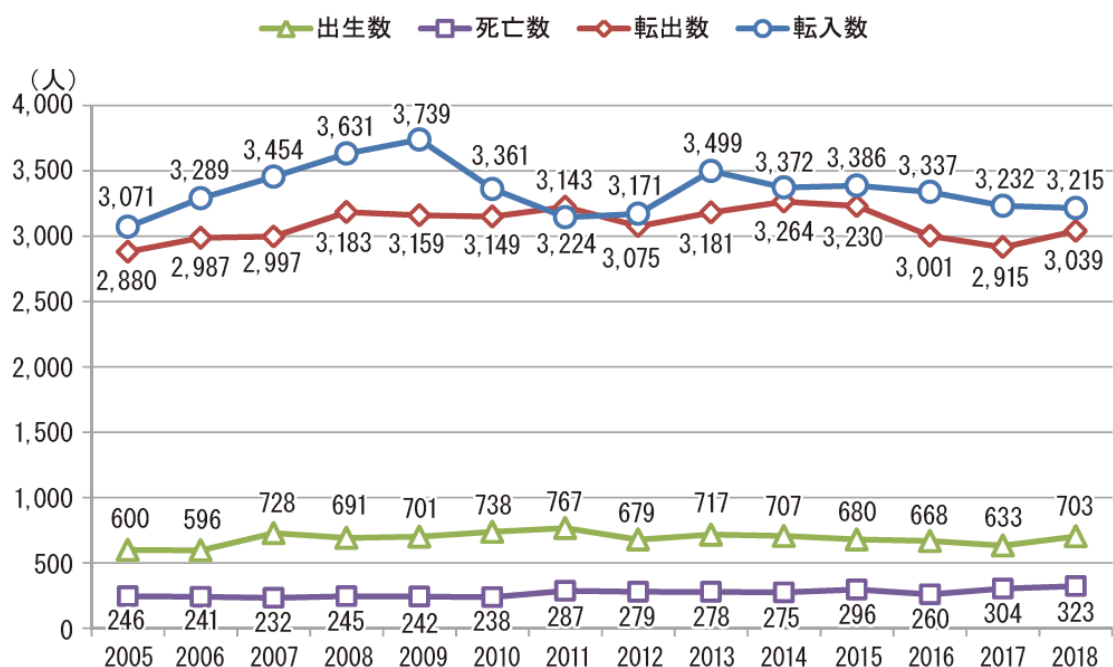
【資料】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(4) 出生・死亡、転入・転出の推移

① 出生・死亡数、転入・転出数の推移

- 本町の自然増減¹は、高い合計特殊出生率²を背景に一貫して自然増を継続しています。出生数は2013（平成 25）年から微減傾向にありましたが、2018（平成 30）年には703人に回復しています。
- 老年人口の増加に伴い、死亡数が近年増加傾向にあり、自然増による増加人数は年々圧縮されてきています。
- 社会増減³については、2009（平成 21）年まで社会増による大幅な転入超過の傾向が続いていましたが、2011（平成 23）年の社会減となり、それ以降、転入超過の傾向は縮小しています。

■ 出生・死亡数、転入・転出数の推移



【資料】「福岡県の人口と世帯年報」

¹ 自然増減：出生と死亡による人口の増減。

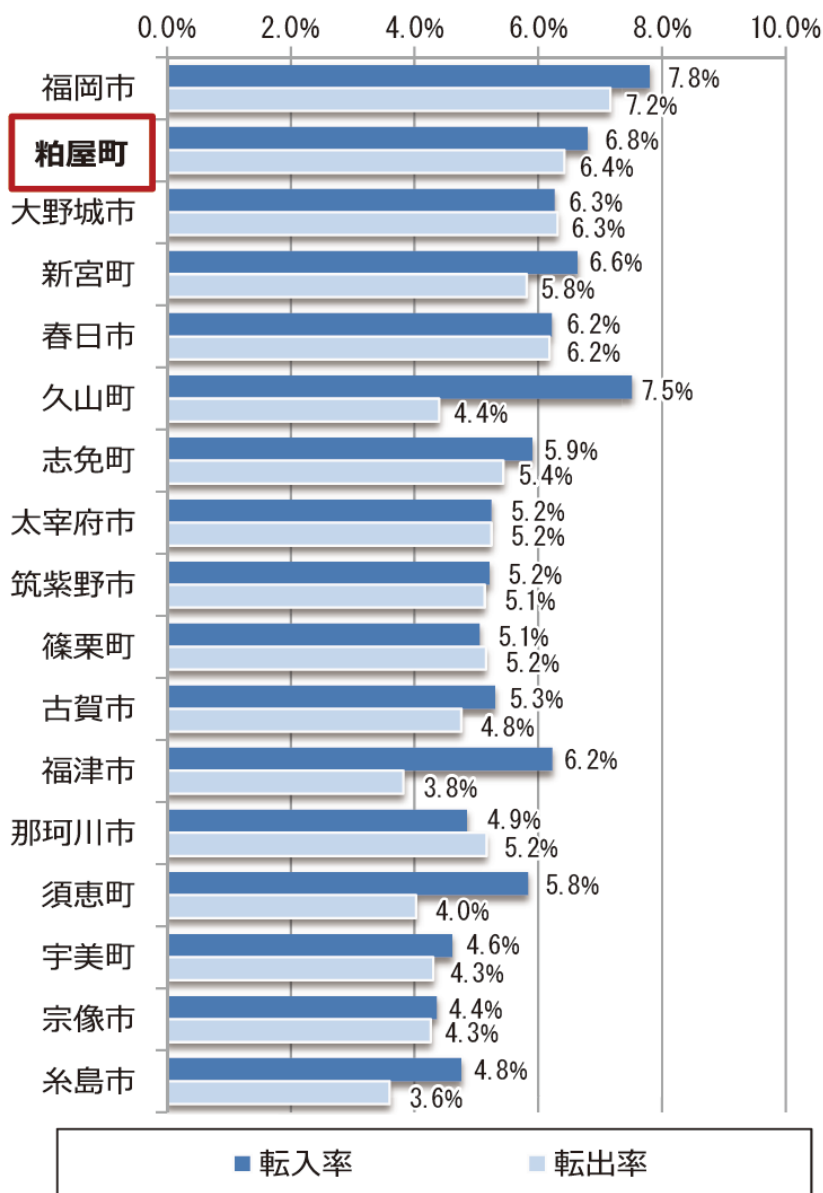
² 合計特殊出生率：人口統計上の指標で、一人の女性が出産可能とされる15歳～49歳までに産む子どもの数の平均を示す。

³ 社会増減：他地域からの転入と転出による人口の増減。

② 転入率・転出率（福岡都市圏内の比較）

●福岡都市圏における転入・転出の状況を比較すると、本町は転入が転出を上回っており、圏内では、福岡市、久山町に次いで転入率が高くなっています。一方、転出率でも高い数値となっていることから、人口の移動が激しい町であることがわかります。

■ 転入率・転出率（福岡都市圏内の比較）



【資料】「2018年福岡県の人口と世帯年報」

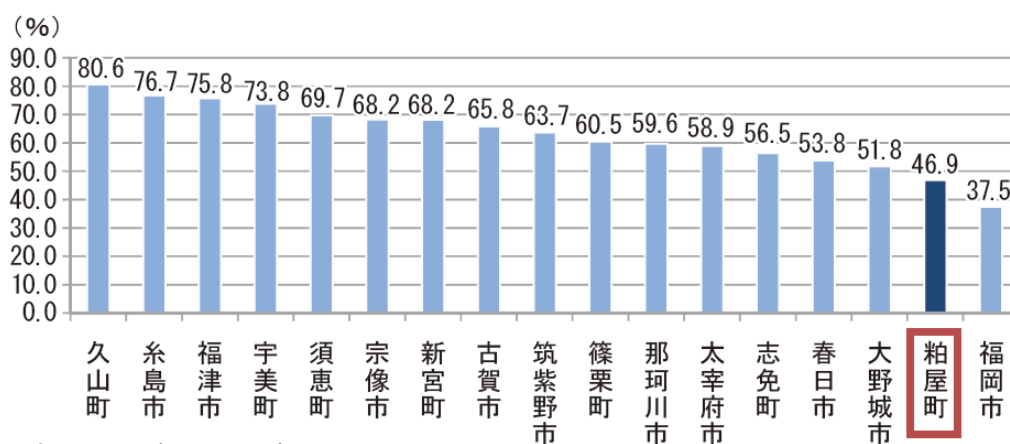
③ 持ち家率（福岡都市圏内の比較）

● 2015（平成 27）年の本町の持ち家率は 46.9%となっています。福岡都市圏内 9 市 8 町のうち 16 番目で下位となっています。本町においては独身や新婚世代、転勤者などが、仕事や生活に便利な場所として賃貸住宅を選ぶ傾向がうかがえます。

■ 持ち家率（福岡都市圏内の比較）

	2015 年			
	住宅に住む 世帯数	持ち家に住む 世帯数	持ち家率	
			(%)	順位
久山町	2734	2204	80.6	1 位
糸島市	34432	26405	76.7	2 位
福津市	22041	16700	75.8	3 位
宇美町	12931	9543	73.8	4 位
須恵町	9724	6779	69.7	5 位
宗像市	38549	26302	68.2	6 位
新宮町	10730	7313	68.2	7 位
古賀市	21858	14390	65.8	8 位
筑紫野市	38754	24671	63.7	9 位
篠栗町	11417	6909	60.5	10 位
那珂川市	17837	10638	59.6	11 位
太宰府市	28810	16968	58.9	12 位
志免町	17212	9723	56.5	13 位
春日市	43140	23213	53.8	14 位
大野城市	39150	20277	51.8	15 位
粕屋町	17766	8334	46.9	16 位
福岡市	753984	282648	37.5	17 位

■ 持ち家率

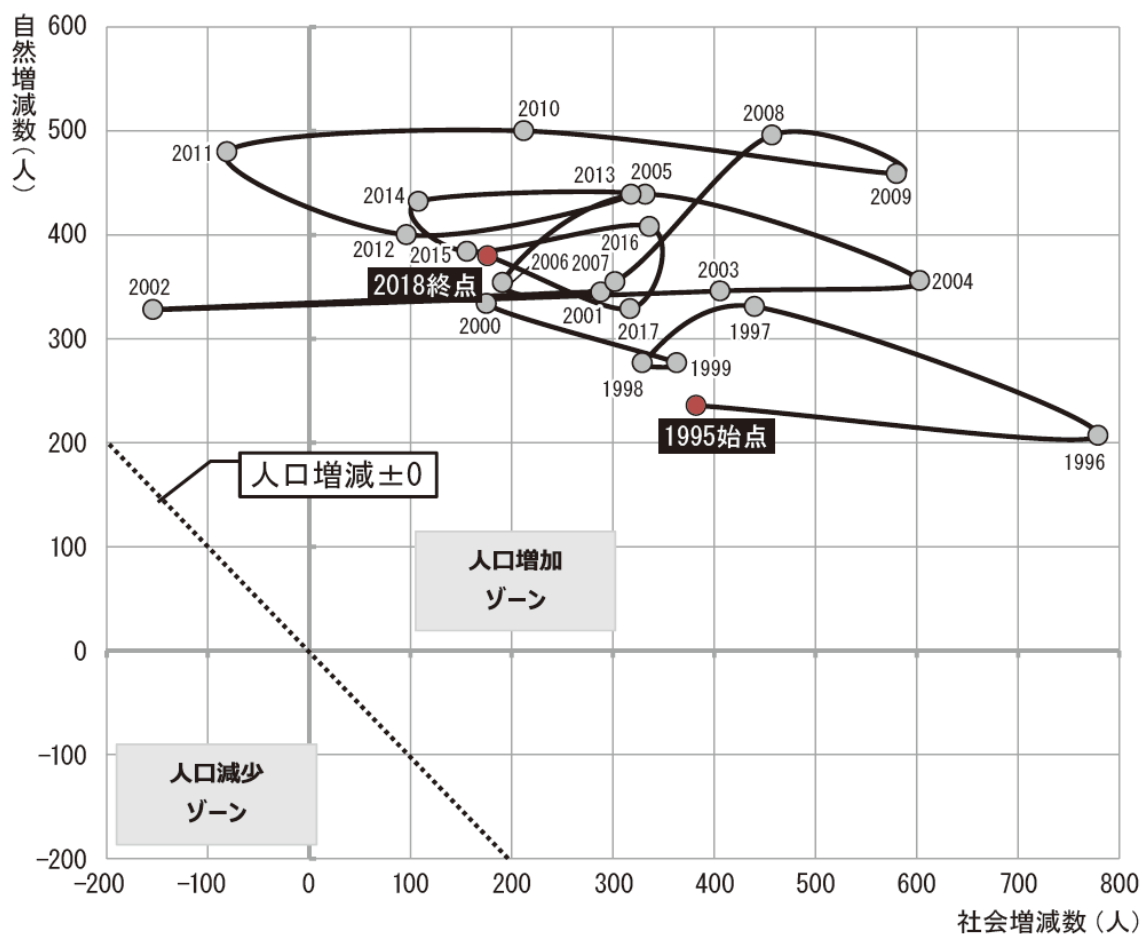


【資料】総務省「国勢調査」

(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減・社会増減の影響

- 自然増減¹（縦の動き）は1995（平成7）～2000（平成12）年にかけては200～300人でしたが、2000（平成12）年以降は300～400人、2008（平成20）年～2011（平成23）年は500人と増加しています。2015（平成27）年以降は400人前後に減少しています。
- 社会増減²（横の動き）は、2002（平成14）年、2011（平成23）年と100人前後の転出超過となっているものの、その他の年では100～800人の範囲で転入超過となっています。
- 1995（平成7）年から2018（平成30）年にかけてすべての年で、人口増加となっています。

■総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響



【資料】「2018年福岡県の人口と世帯年報」

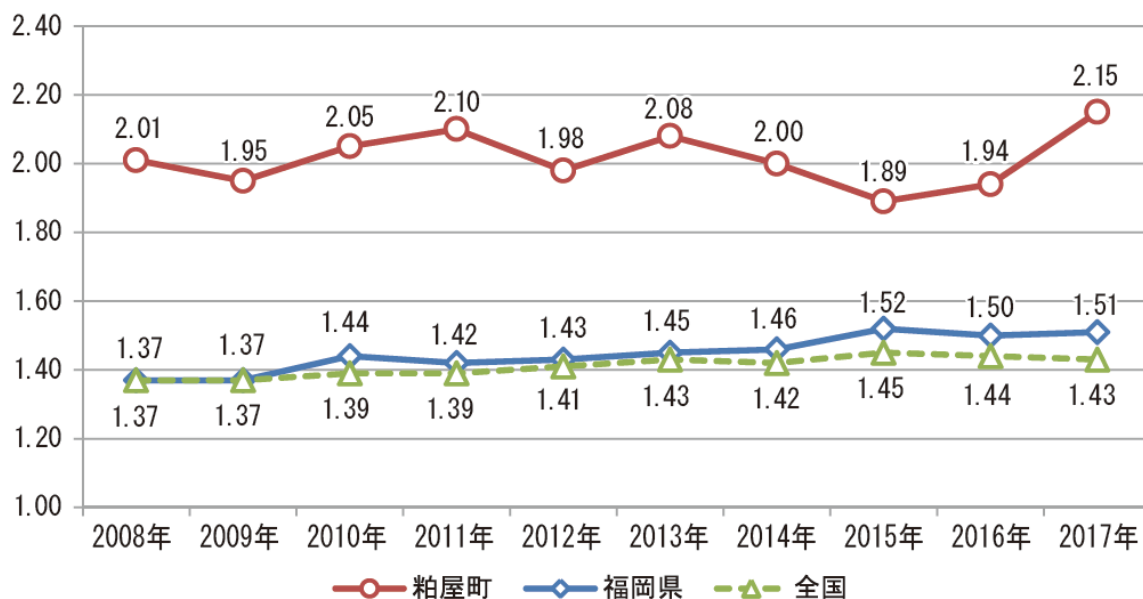
¹ 自然増減：出生と死亡による人口の増減。

² 社会増減：他地域からの転入と転出による人口の増減。

(6) 合計特殊出生率の推移

- 本町の合計特殊出生率¹の推移をみると、2国や県の平均を大きく上回る2.0前後を維持しており、我が国の将来の人口の維持に必要な目安とされている2.07に近い水準に達しています。

■ 合計特殊出生率の推移



【資料】 全国と福岡県の合計特殊出生率は、厚労省「人口動態統計」

粕屋町の合計特殊出生率は、福岡県保健統計年報より算出

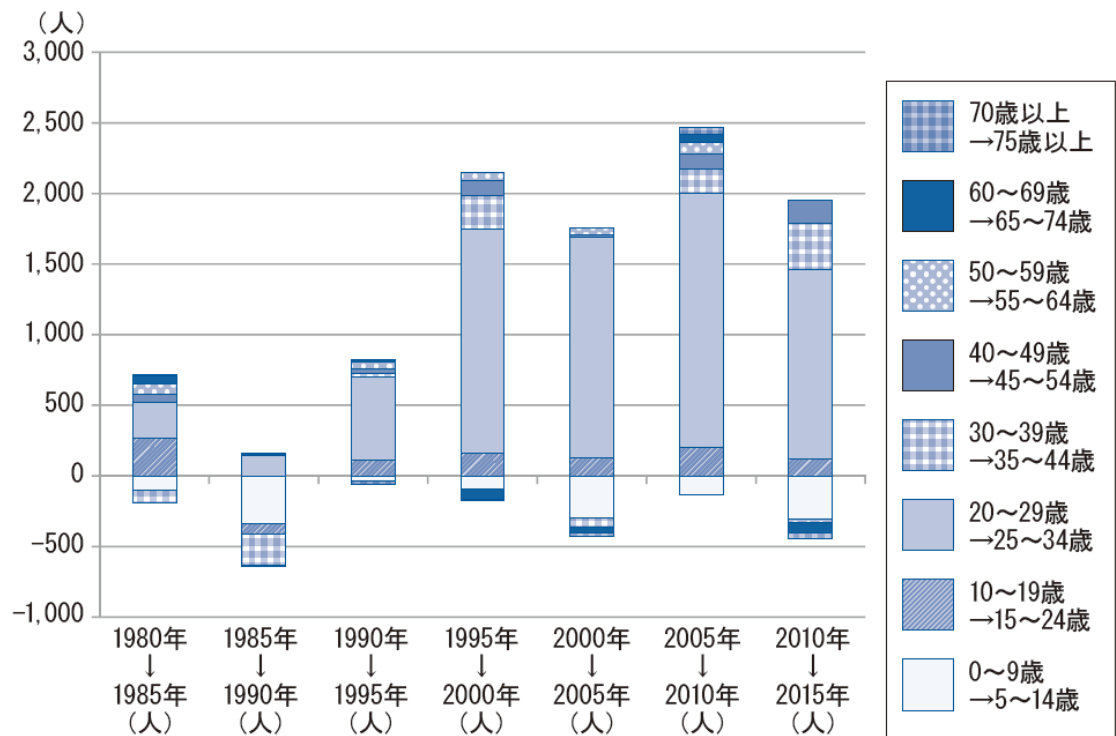
【注記】 全国の合計特殊出生率については、日本人の出生数から算出しているが、2014年以前の福岡県と粕屋町の合計特殊出生率は外国人を含む総人口から算出している。2014年以降は国の基準にあわせた数値となっている。

¹ 合計特殊出生率：人口統計上の指標で、一人の女性が出産可能とされる15歳～49歳までに産む子どもの数の平均を示す。

(7) 年齢階級別の人口移動の状況

- 本町の年齢階級別の純移動数の推移をみると、「1985（昭和 60）年→1990（平成 2）年」に一度、転出超過となっていますが、その他の期間では転入超過となっています。
- 全体的に「0 - 9 歳→5 -14 歳」の転出超過となっています。

■年齢階級別人口移動の状況の長期的動向

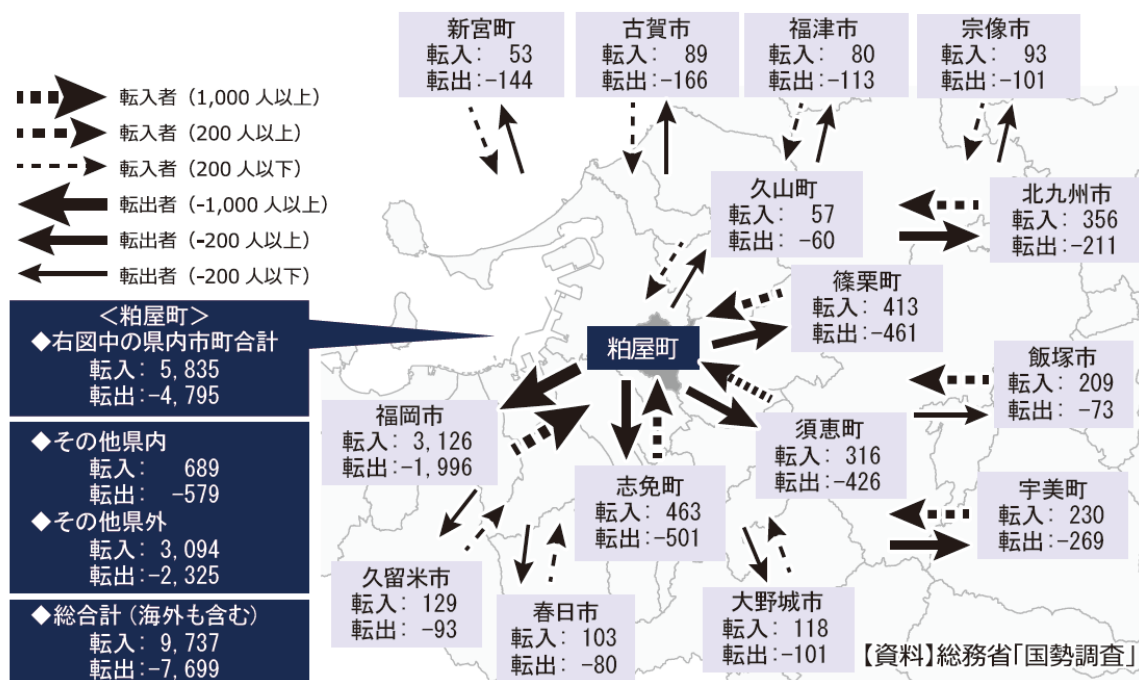


【資料】総務省「国勢調査」

(8) 市町村別の人口移動の状況（2010年から2015年にかけての5年間）

- 福岡県内の主な転入元、転出先をみると、転入前の居住地では、福岡市がほぼ占めており、都市近郊の良質な住宅地としてのベッドタウンとしての特徴による求心力があったと考えられます。一方で、転出後の居住地でも、福岡市への転出が最も多く、次いで志免町、篠栗町、須恵町等への流出が目立ちます。
- 福岡県外の主な転入元、転出先をみると、転入前の居住地では、長崎県、熊本県と九州圏からが多く、転出後の居住地では、熊本県が多いものの、東京都、大阪府等の大都市圏への流出がつかえます。

■ 福岡県内自治体の人口移動の状況（主な転入・転出先）



■ 都道府県別・移動状況（上位10位）

（転入元）

単位：人

都道府県名	総数	男性	女性
長崎県	321	162	159
熊本県	283	149	134
大分県	257	120	137
東京都	242	131	111
鹿児島県	218	103	115
佐賀県	171	80	91
大阪府	169	95	74
宮崎県	158	79	79
神奈川県	134	71	63
広島県	137	81	56

（転出先）

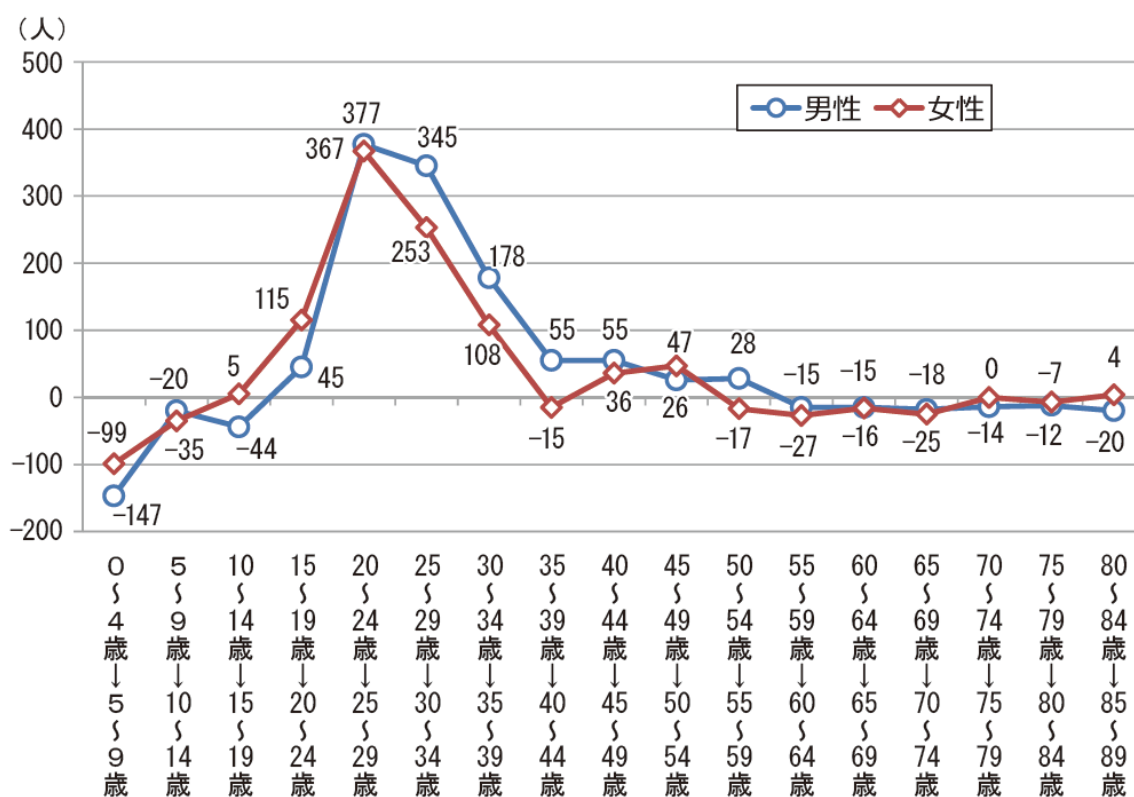
単位：人

都道府県名	総数	男性	女性
熊本県	-221	-136	-85
東京都	-191	-97	-94
長崎県	-174	-92	-82
大阪府	-155	-88	-67
鹿児島県	-146	-77	-69
大分県	-144	-70	-74
愛知県	-138	-81	-57
埼玉県	-130	-72	-58
山口県	-105	-54	-58
佐賀県	-104	-61	-43

(9) 性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況

- 2010（平成 22）年～2015（平成 27）年における人口移動において、男女ともに「20～24 歳→25～29 歳」「25～29 歳→30～34 歳」で大幅な転入超過となっており、福岡都市圏への就職や転勤、結婚に伴うUターンによる転入の影響と考えられます。
- 未成年における転出超過は子育て期におけるマイホーム購入の影響や若い世代と3世代でのマイホーム購入などが考えられます。

■ 性別・年齢階級別人口移動の推移／男性（2010年から2015年までの推移）

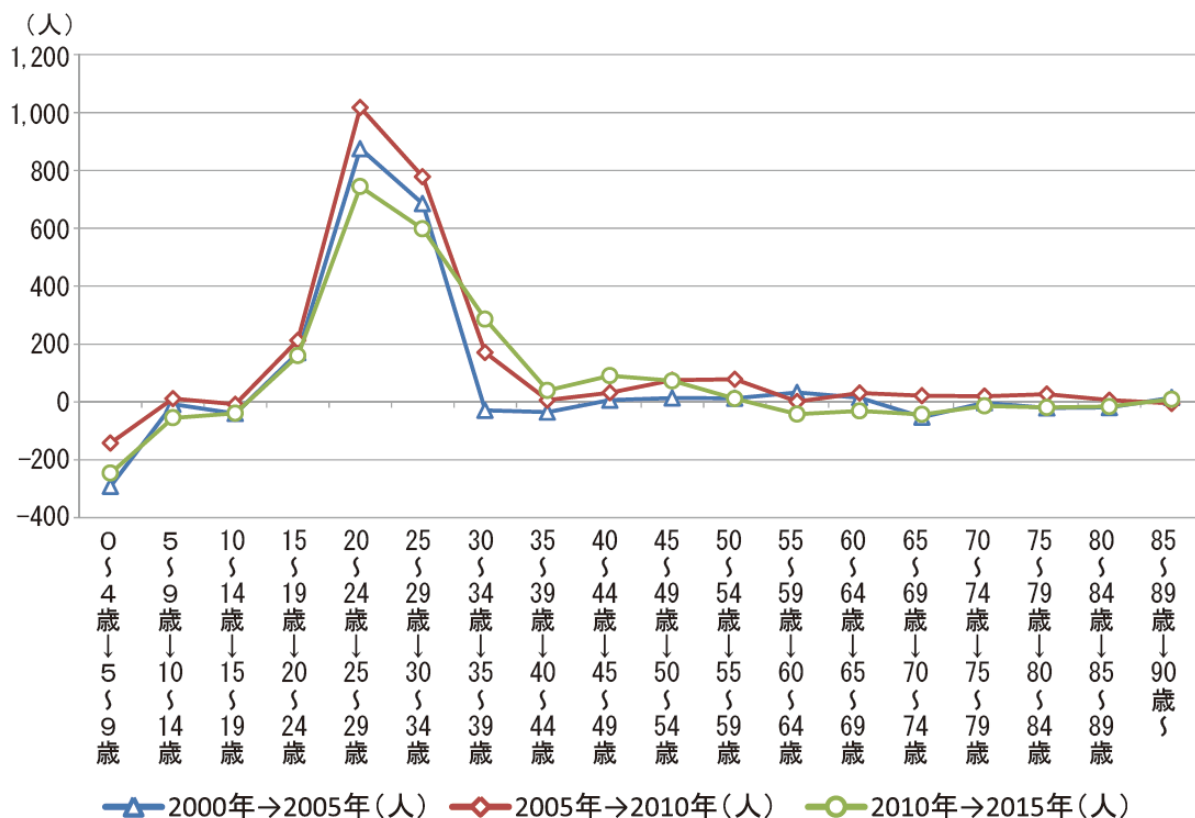


【資料】総務省「国勢調査」

(10) 年齢階級別の人口移動の状況の長期動向

- 年齢階級別人口の純移動数をみると、すべての年次で「20～24 歳→25～29 歳」「25～29 歳→30～34 歳」で大幅な転入超過となっていますが、直近の「2010（平成 22）年→2015（平成 27）年」では転入数が若干減少しています。

■ 年齢階級別人口移動の推移



【資料】総務省「国勢調査」

2. 産業・経済動向

(1) 粕屋町の産業人口及び生産性

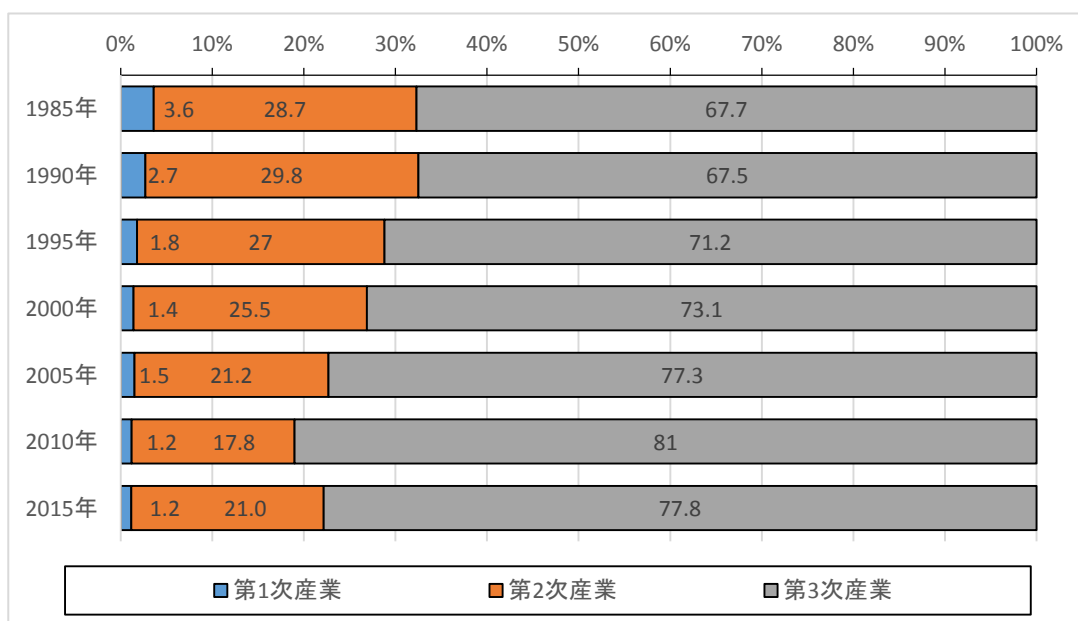
①産業別就業人口の推移

- 粕屋町の産業別就業人口の推移をみると、「就業者総数」については一貫して増加傾向が続いています。
- 産業別にみると、「第1次産業」については、就業者及び割合ともに減少傾向となっており、近年はほぼ横ばいで推移しています。「第3次産業」の就業者数については増加しています。「第2次産業」については、2000（平成12）年を境に就業者数が減少を続けていましたが、2015（平成27）年には増加に転じています。

■粕屋町産業別就業人口の推移

(単位：人、%)

		1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
就業者総数		13,116	14,236	15,898	17,493	18,422	19,564	22,483
第1次産業	就業者	467	386	294	243	281	241	260
	割合	3.6	2.7	1.8	1.4	1.5	1.2	1.2
第2次産業	就業者	3,768	4,243	4,290	4,455	3,911	3,479	4,673
	割合	28.7	29.8	27.0	25.5	21.2	17.8	21.0
第3次産業	就業者	8,853	9,548	11,187	12,453	13,844	14,276	17,312
	割合	67.7	67.5	71.2	73.1	77.3	81.0	77.8
分類不能産業		28	59	127	342	387	1,568	238

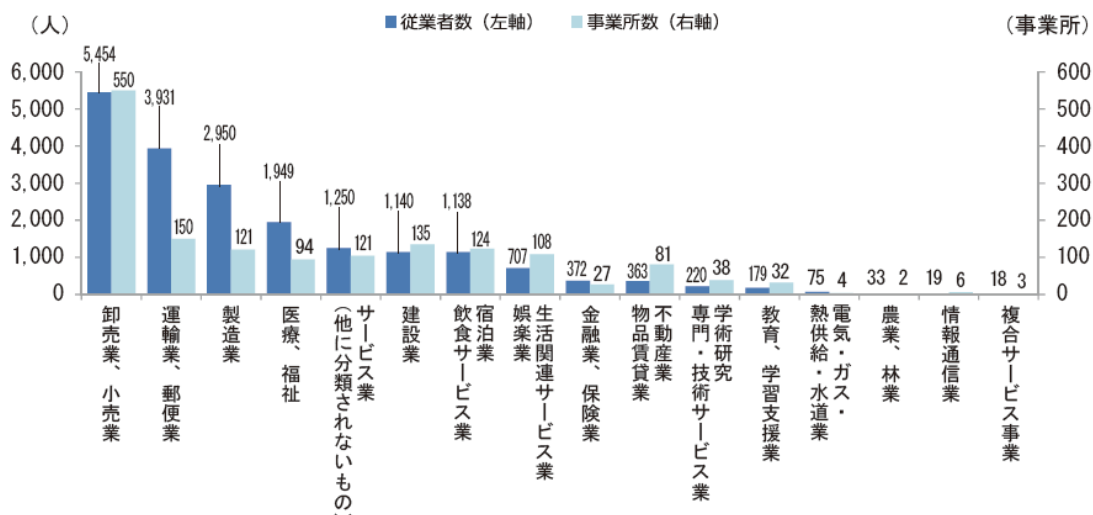


【資料】総務省「国勢調査」

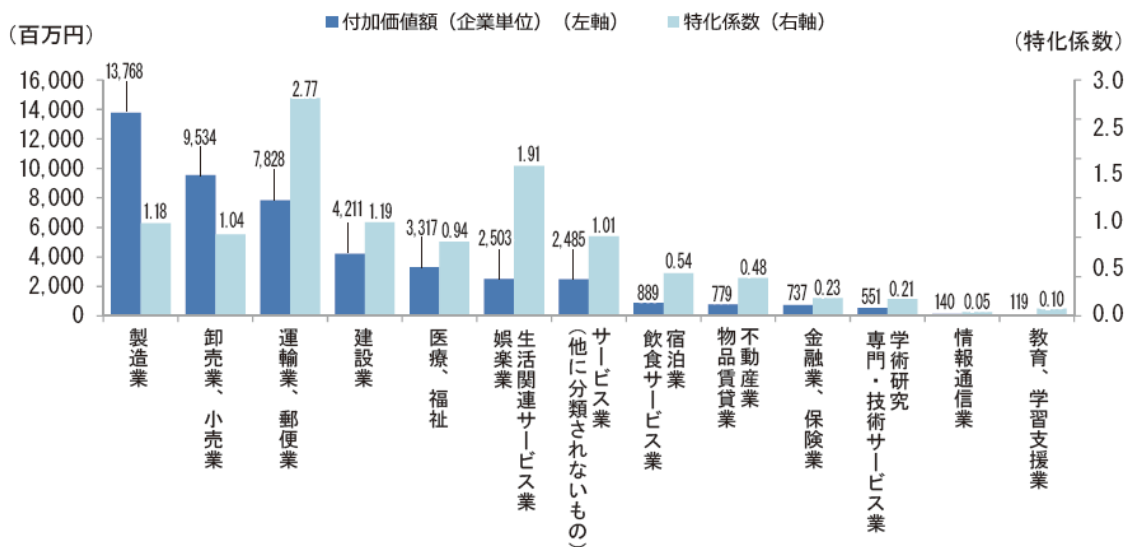
②事業所数・従業員数

- 2016（平成28）年の経済センサスから、産業別就業人口数をみると、卸売業・小売業、運輸業・郵便業等が多くなっています。
- 産業別特化係数¹をみると、運輸業・郵便業が3～4と最も高くなっています。

■産業大分類にみた事業所数と従業者数



■産業大分類にみた付加価値額²



【資料】2016（平成28）年総務省「経済センサス」

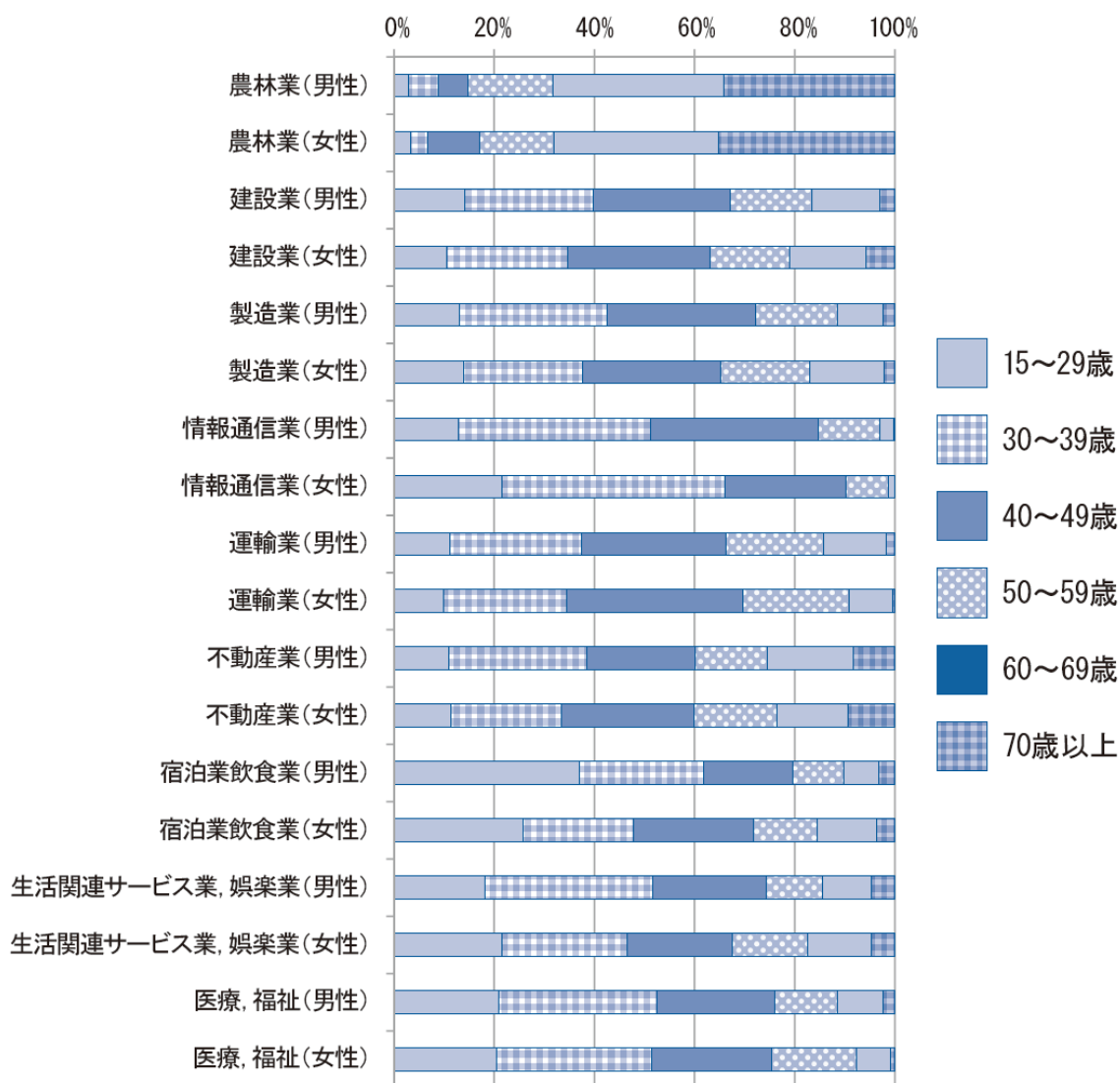
¹ **特化係数**：ここでいう特化係数は、地域の産業の付加価値額について、全国の同じ産業の比率と比した数値である。1を超えていれば全国に比べその産業の稼ぐ力が相対的に高いということがわかる。

² **付加価値額**：企業が一定期間に生み出した利益。売上高から仕入や原材料等の原価を差し引いたもの。

③男女別年齢階層別産業人口

●2015（平成 27）年の国勢調査から、男女別年齢階層別産業人口をみると、農林漁業における 60 歳以上が約 7 割を占めており、高齢化が進んでいることがうかがえます。また、男性のうち「宿泊業・飲食サービス業」においては 15～29 歳が 3 割以上と最も高くなっており、若い世代の雇用の受け皿となっていることがわかります。

【男女別年齢階層別産業人口の状況】



【資料】総務省「国勢調査」

④ 農業産出額の推移

- 粕屋町の農業産出額は減少傾向にありますが、近年はほぼ横ばいで推移しています。

【粕屋町農業産出額の推移】

	2004年	2014年	2015年	2016年	2017年
農業産出額（千万円）	63	36	36	38	37

【資料】福岡県「統計年鑑」

⑤ 製造品出荷額等の推移

- 粕屋町の製造品出荷額は近年増加傾向にあります。
- 一方で事業所総数は2016年以降減少しています。

【粕屋町製造品出荷額等の推移】

	2004年	2009年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
出荷額（万円）	36,295	35,342	48,609	54,014	50,404	52,621	54,993
1事業所当たり 出荷額（百万円）	684	570	810	915	700	907	1,058
事業所総数	53	62	60	59	72	58	52

【資料】福岡県「統計年鑑」

⑥ 年間商品販売額の推移

- 粕屋町の年間商品販売額は2014（平成26）年に2,353億円で、2002年以降は増加傾向にあります。
- 一方で商店数は2007（平成19）年の461店をピークに減少しています。

【粕屋町商業年間商品販売額の推移】

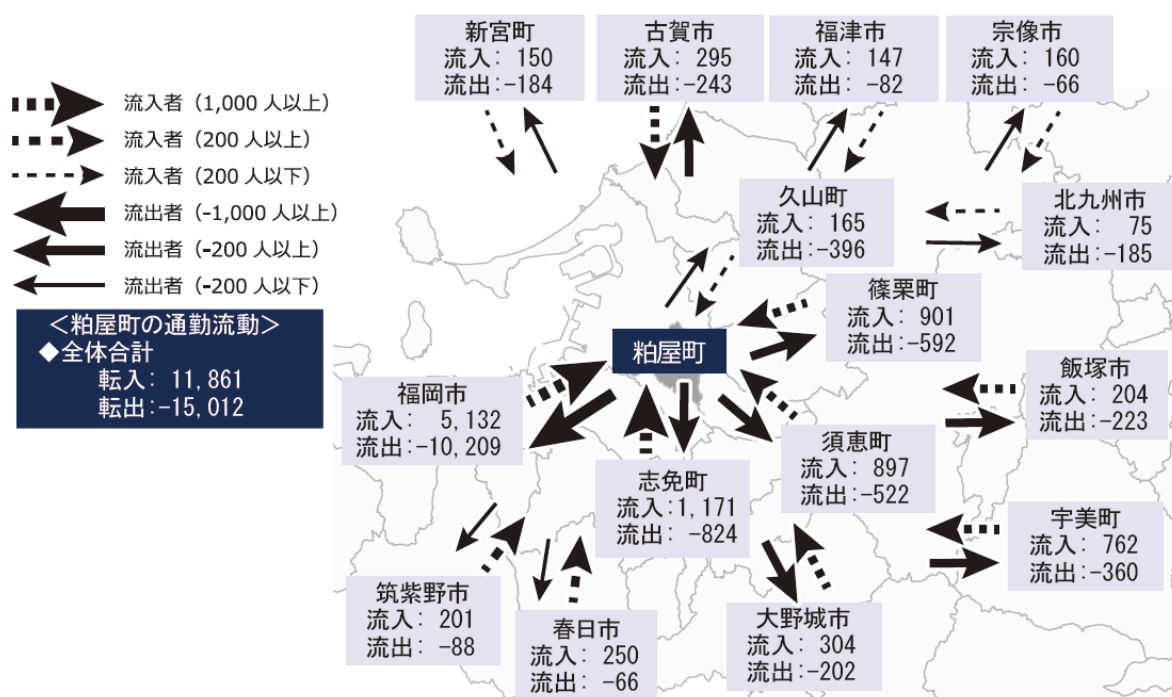
	1997年	1999年	2002年	2004年	2007年	2011年	2014年
販売額（百万円）	156,963	195,896	152,691	209,307	212,171	213,838	235,329
1商店当たり 販売額（百万円）	473	531	429	537	460	587	646
商店数	332	369	356	390	461	364	364

【資料】福岡県「統計年鑑」「商業統計調査」

(2) 粕屋町と他市町村間の通勤流動

- 粕屋町と他市区町村との間の通勤流動について見てみると、流入・流出ともに最も多く、福岡市に通勤する町民は 10,209 人となっています。
- 福岡市に次いで、糟屋郡の自治体で通勤流動が高くなっていますが、久山町、新宮町は通勤の流出が高くなっています。その他の郡内自治体は本町への通勤者が多くなっています。
- 全体でみると通勤流動人口は流出が 3,151 人多くなっています。

■ 福岡県内自治体の通勤流動の状況（主な通勤流入・流出先）



【資料】総務省「国勢調査」

(3) 町民の所得状況

① 所得状況の推移

- 粕屋町の所得状況の推移をみると、総生産額については、2014（平成 26）年度まで増加を続けていましたが、直近では減少に転じています。
- 所得額については、年々増加しています。

【所得状況の推移】

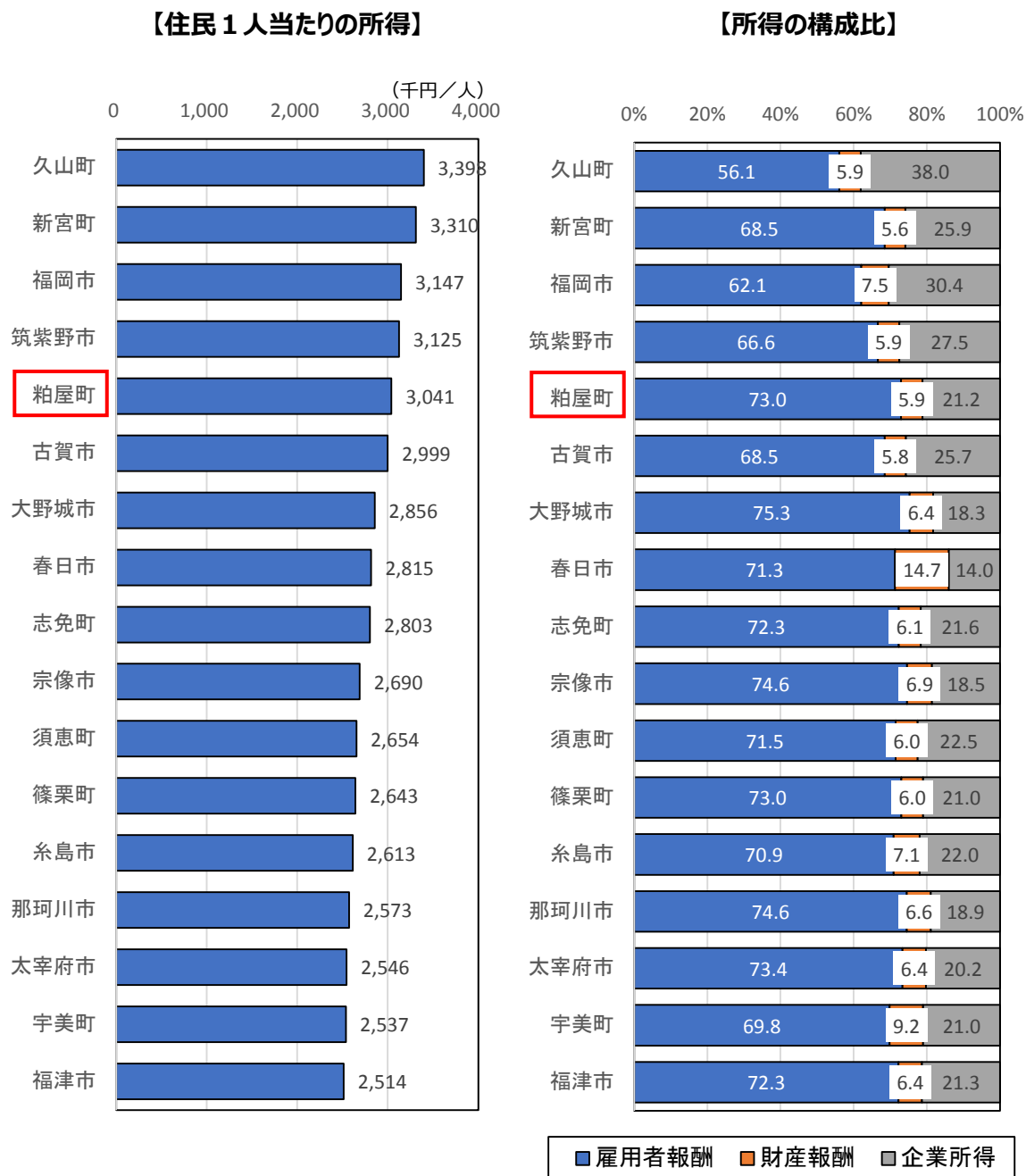
		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
市町村内 総生産 ¹	生産額（百万円）	143,392	155,469	161,725	160,763	158,353
	人口1人当たり実額（千円）	7,013	7,573	7,824	7,747	7,542
市町村民 所得	所得額（百万円）	113,229	121,335	126,841	135,227	140,124
	人口1人当たり実額（千円）	2,638	2,777	2,867	2,981	3,041

【資料】福岡県「市町村民経済計算」

¹ 市町村内総生産：1年間に町内で行われた各経済活動の生産によって新たに生み出された付加価値額（産出額から経費を控除したもの）の総額。

②所得状況（福岡都市圏内比較）

- 粕屋町の1人当たりの所得は3,041千円と、福岡都市圏内では5番目となっています。
- 1人当たりの所得が上位の市町は、所得構成で企業所得¹の割合が高いという特徴がみられます。



【資料】福岡県「市町村民経済計算」（2016（平成28）年度）

¹ 企業所得：企業活動における法人税上の利益で収益から費用及び損金を差し引いたもの。

3. 生活環境

(1) 道路交通

①交通関連の状況

■自動車保有台数

(単位：台)

	総計	貨物用		乗合用	
		自家用	営業用	自家用	営業用
1975年度	4,840	840	196	28	0
1980年度	9,029	2,371	357	42	0
1985年度	10,731	2,549	622	50	0
1990年度	15,456	3,316	1,118	35	0
1995年度	17,092	3,300	1,402	34	0
2000年度	18,982	3,179	1,786	37	10
2005年度	20,278	3,040	1,621	36	16
2010年度	20,169	2,580	1,701	36	18
2015年度	20,666	2,414	1,720	36	43
2016年度	21,408	2,462	1,771	38	56
2017年度	21,653	2,472	1,779	42	59
2018年度	21,875	2,495	1,829	44	59

【資料】九州運輸局 福岡運輸支局 統計

■JR各駅別利用状況

駅名	1日平均乗降客数人員 (人/日)			1日平均乗車人員 (人/日)		
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
JR長者原駅	6,900	7,000	7,200	3,800	3,900	3,975
JR原町駅	2,400	2,400	2,600	1,400	1,500	1,514
JR柚須駅	5,900	6,000	6,800	3,600	3,800	4,076
JR門松駅	2,500	2,600	2,700	1,400	1,400	1,385
JR伊賀駅	1,300	1,300	1,400	700	800	792
JR酒殿駅	1,100	1,100	1,100	600	600	653

※2016年度から平均乗降客数から平均乗員人員に公表方法が変更

※2018年度についてはJR九州統計資料に基づくデータ

【資料】粕屋町「町勢要覧」

■ バス運行回数

各年4月1日時点

区 間	1日当り運行回数				
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
天 神⇔粕屋町内	312	312	312	297	293
博 多 駅⇔粕屋町内	60	60	60	54	44
福岡空港⇔粕屋町内	93	93	93	93	83

【資料】粕屋町「町勢要覧」

■ J R九州運行回数

各年4月1日時点

区 間	1日当り運行回数				
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
福 北 ゆたか線	172	172	172	158	158
香 椎 線	101	101	101	89	89

※2018年4月1日ダイヤ改正

【資料】粕屋町「町勢要覧」

■町道及び橋りょうの状況

(単位：m・%)

区 分		町 道									
		1984年度	1990年度	1995年度	2000年度	2005年度	2010年度	2015年度	2018年度		
道 路	実延長 (A)		141,212	154,820	158,740	161,711	162,907	163,652	166,212	167,902	
	内 訳	舗装道延長 (B)	135,132	142,806	150,890	154,755	159,248	160,191	162,990	164,792	
		未舗装道延長 (C)	6,080	12,014	7,850	6,956	3,659	3,461	3,222	3,110	
	舗装率 (B) / (A)		95.7	92.2	95.1	95.7	97.8	97.9	98.1	98.1	
	未舗装率 (C) / (A)		4.3	7.8	4.9	4.3	2.2	2.1	1.9	1.9	
	歩道等設置道路延長		-	30,128	36,690	40,163	43,713	43,993	44,444	45,485	
全橋りょう (D)		橋数	113	106	109	109	120	121	122	122	
		延長	1,006	1,064	1,084	1,156	1,192	1,194	1,211	1,211	
橋 り ょう	内 訳	永久橋 (E)	橋数	113	106	109	109	121	122	122	121
			延長	1,006	1,064	1,084	1,156	1,194	1,211	1,211	1,211
	石橋	橋数	0	0	0	0	0	0	0	0	
		延長	0	0	0	0	0	0	0	0	
	木橋	橋数	0	0	0	0	0	0	0	0	
		延長	0	0	0	0	0	0	0	0	
	永久橋率 (E) / (D)		橋数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			延長	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【資料】粕屋町「町勢要覧」

■県道の整備状況

2019年4月1日時点

路線名	実延長 (m)	面積 (㎡)	舗装済	
			延長 (m)	率 (%)
福岡～直方線	981	11,384	981	100
筑紫野～古賀線	2,286	41,156	2,286	100
福岡～太宰府線	162	1,789	162	100
福岡東環状線	6,066	104,905	6,066	100
伊賀～仲原線	1,368	10,146	1,368	100
志免～須恵線	955	11,166	955	100
福岡～篠栗線	5,387	122,893	5,387	100

【資料】福岡県道路台帳

(2) 衛生

①公共下水道整備状況

- 粕屋町の公共下水道の整備状況をみると、水洗化率は2010（平成22）年度から90%を超えており、着実に整備されています。

■ 粕屋町の公共下水道の整備状況

(単位：人・%)

	(A)処理区域 面積(ha)	(B)人 口	(C)処理区域 内人口	(D)処理区域 内水洗化人口	(E)普及率 (C)／(B)	(F)水洗化率 (D)／(B)
1995年度	233.0	32,184	9,880	6,334	30.7	19.7
2000年度	457.1	35,250	25,741	18,569	73.0	52.7
2005年度	631.0	38,539	35,817	32,692	92.9	84.8
2010年度	697.1	42,628	41,472	38,637	97.3	90.6
2014年度	710.2	45,201	44,218	41,919	97.8	92.7
2015年度	714.9	45,785	44,789	42,795	97.8	93.5
2016年度	718.1	46,668	45,735	43,844	98.0	93.9
2017年度	736.4	47,218	46,315	44,476	98.1	94.2
2018年度	739.6	47,530	46,657	44,986	98.2	94.6

【資料】粕屋町「町勢要覧」

②ごみ処理の状況

- 粕屋町のごみ処理の状況をみると、総排出量については、増減を繰り返しながらほぼ横ばいとなっています
- 1日1人当たりの可燃ごみ排出量については、減少傾向で推移しています。

■ 粕屋町のごみ処理の状況

	行政区域		ごみの種類別収集量						1人1日 総排出量 (g)	1人1日 可燃ごみ 排出量(g)
	世帯	人口	可燃 ごみ(t)	不燃 ごみ(t)	粗大 ごみ(t)	資源 ごみ(t)	その他 (t)	合計(t)		
1995年度	10,995	32,184	7,950	382	412	694	0	9,608	818	691
2000年度	13,022	35,250	10,010	654	760	434	9	12,129	943	798
2005年度	14,965	38,539	10,734	277	228	469	64	11,871	844	770
2010年度	17,128	42,628	10,647	221	258	399	49	11,654	749	689
2015年度	18,999	45,785	10,736	247	287	416	44	11,730	702	642
2016年度	19,521	46,668	10,746	259	303	422	42	11,772	691	631
2017年度	19,886	47,218	10,752	271	298	414	39	11,774	683	624
2018年度	20,235	47,530	10,878	299	355	416	36	11,984	690	627

【資料】粕屋町「町勢要覧」

(3) 都市公園

①都市公園整備状況

- 粕屋町の都市公園の面積は、2017（平成 29）年 3 月現在 18.97ha となっています。
- 1 人あたりの都市公園面積は、4.04 m²と増加しましたが、まだ低い水準です。

■糟屋地域の都市公園の整備状況

2017 年 3 月現在

市町村名	都市計画 区域人口 (千人)	都市公園合計		1 人あたり 都市公園面積 (m ² /人)
		箇所	面積 h a	
粕屋町	47	13	18.97	4.04
古賀市	130	48	48.57	10.12
宇美町	52	37	114.39	30.92
篠栗町	4	29	16.00	5.52
志免町	44	46	46.77	10.17
須恵町	0	27	0.00	0.00
新宮町	73	32	15.05	4.70
久山町	11	8	20.50	25.63

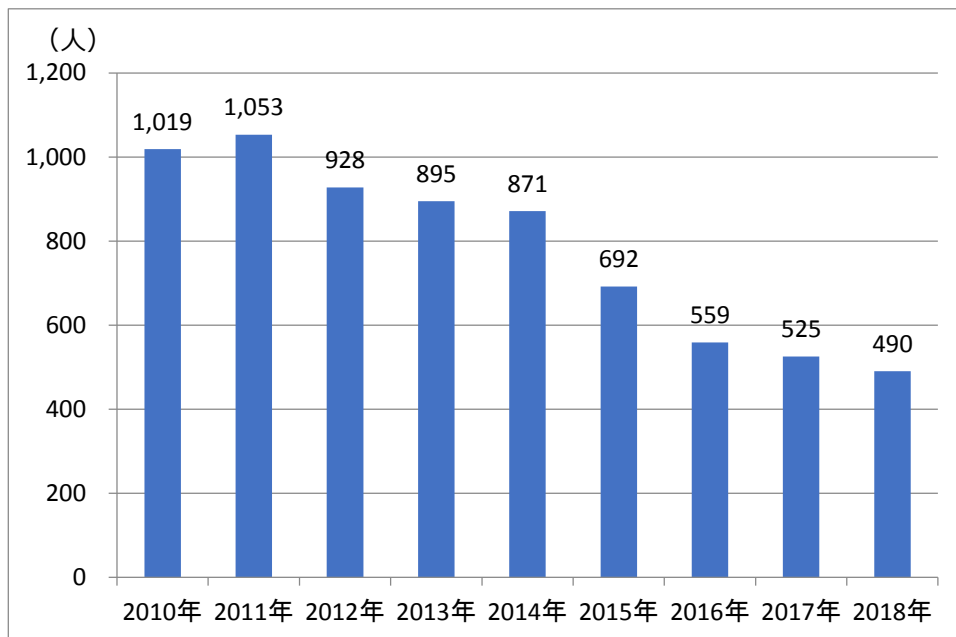
【資料】福岡県「都市公園整備現況調査」

(4) 安全（防犯・交通安全・防災）

① 犯罪発生件数の推移

- 粕屋町の犯罪発生件数は年々減少していますが、粕屋警察署管内では最も多くなっています。
- 特に窃盗犯の割合が町内の犯罪発生件数の77%を占めています。

■ 粕屋町の犯罪発生件数の推移



■ 糟屋地域の犯罪発生件数

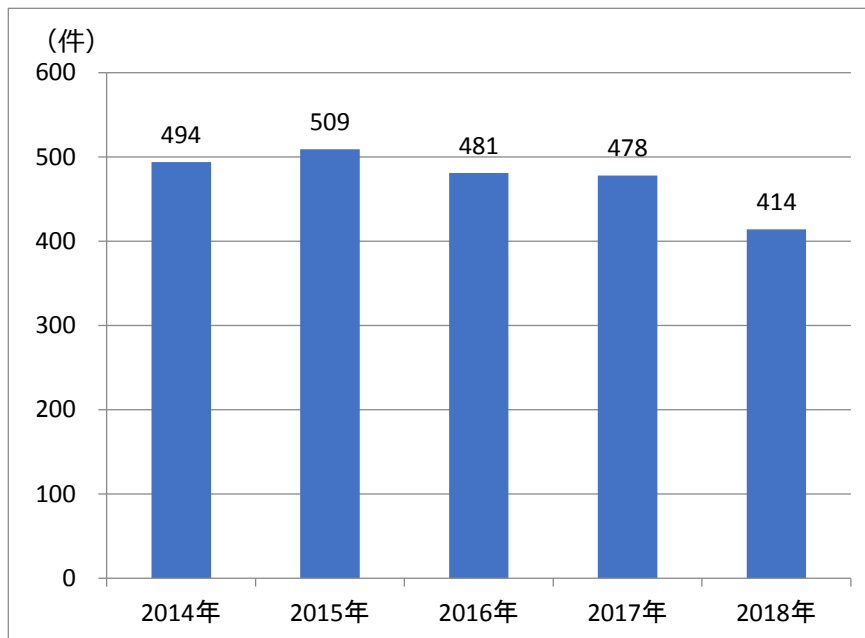
2018年中

	刑法犯合計	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他
粕屋町	490	1	29	378	14	8	60
古賀市	396	2	24	300	14	5	51
宇美町	132	1	19	86	6	3	17
篠栗町	107	3	13	65	2	6	18
志免町	271	1	25	173	11	9	52
須恵町	151	1	14	104	10	4	18
新宮町	197	1	18	133	8	4	33
久山町	53	0	1	33	2	1	16

②交通事故発生件数の推移

●交通事故発生件数は、減少傾向にありますが、糟屋郡内では最も多くなっています。

■粕屋町の交通事故発生件数の推移



■糟屋地域の交通事故発生

2018年中

	発生件数	死者数	重傷者数	軽傷者数
粕屋町	414	0	7	407
古賀市	307	0	6	377
宇美町	140	1	0	139
篠栗町	135	1	1	133
志免町	305	2	6	297
須恵町	131	0	0	131
新宮町	216	1	1	214
久山町	100	0	1	99

【資料】福岡県警統計

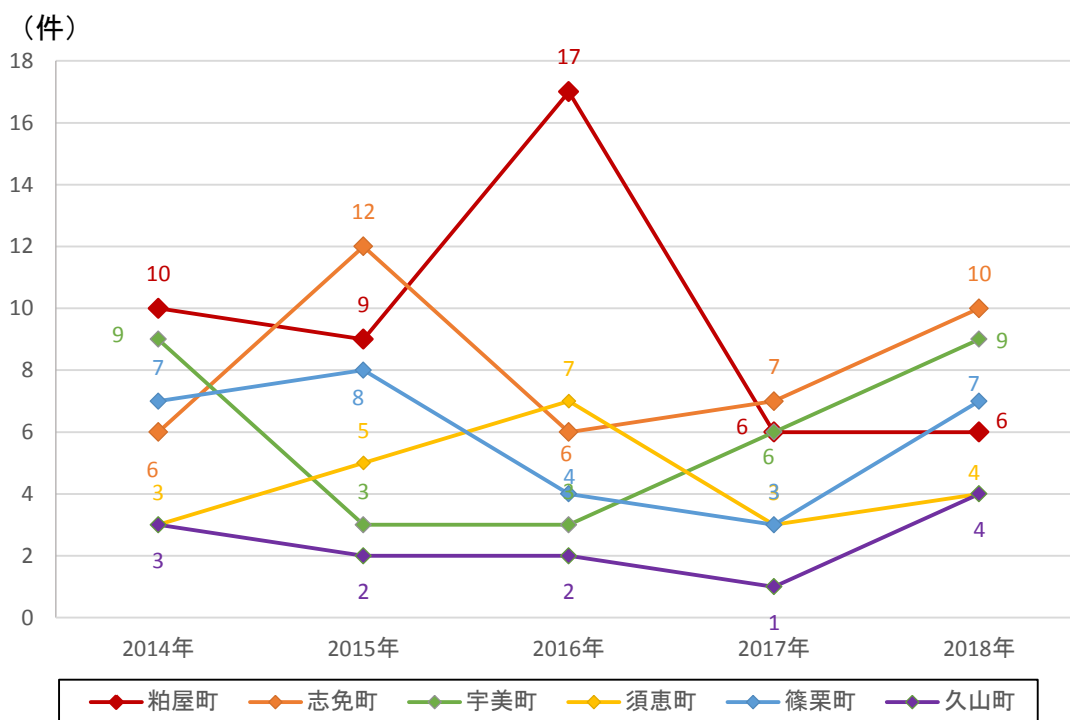
③火災の発生状況

●粕屋町の火災の発生状況は、2016（平成28）年は17件ありましたが、2018（平成30）年では6件に減少しています。

■糟屋中南部地域の火災発生状況

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
粕屋町	10	9	17	6	6
志免町	6	12	6	7	10
宇美町	9	3	3	6	9
須恵町	3	5	7	3	4
篠栗町	7	8	4	3	7
久山町	3	2	2	1	4
計	38	39	39	26	40

【資料】粕屋南部消防本部統計



4. 教育

(1) 学校教育

①園児・児童・生徒数の状況

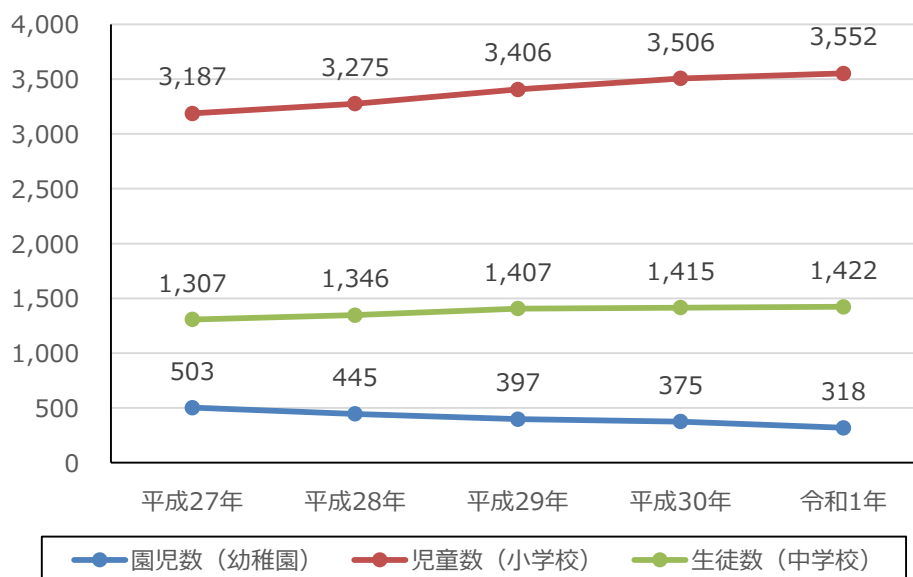
- 粕屋町の児童・生徒数は増加を続けています。
- 幼稚園園児数は減少傾向となっています。

■園児・児童・生徒数の状況

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
幼稚園	園数	4	4	4	4	4
	園児数	503	445	397	375	318
小学校	校数	4	4	4	4	4
	教員数	163	166	182	189	205
	児童数	3,187	3,275	3,406	3,506	3,552
	教員一人当たり児童数	19.6	19.7	18.7	18.6	17.3
中学校	校数	2	2	2	2	2
	教員数	79	79	83	91	90
	生徒数	1,307	1,346	1,407	1,415	1,422
	教員一人当たり生徒数	16.5	17.0	17.0	15.5	15.8

※調査対象は幼稚園（公立4園）、小学校（公立4校）、中学校（公立2校）

【資料】文部科学省「学校基本調査」（各年5月1日現在）



■ 児童生徒数の状況（県内比較）

- 粕屋町の2017（平成29）年における小学校児童数は3,406人、中学校生徒数は1,407人となっており、糟屋郡内では一番多い状況です。

■ 糟屋郡内の児童生徒数の状況比較

2017年

	小学校児童数 (人)	中学校生徒数 (人)	高等学校生徒数 (人)
粕屋町	3,406	1,407	819
宇美町	2,310	1,051	585
篠栗町	1,993	1,014	0
志免町	3,180	1,358	0
須恵町	1,910	788	829
新宮町	2,832	1,043	1,112
久山町	596	273	0
福岡県	278,932	136,806	131,385

※調査対象は町内にある公立・私立すべての学校に在籍する児童生徒

【資料】統計でみる市区町村のすがた 2019

5. 保育・福祉・医療等

(1) 保育

① 保育・子育ての状況

- 認可保育所の入所児童数は年々増加しており、保育施設の環境整備により定員数を増やしていますが、待機児童の解消には至っていない状況です。
- 学童保育を利用する児童数は年々増加しており、待機児童数が増加しています。

■ 認可保育所の入所児童数と待機児童数の推移

各年4月

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
定員数	955	1,215	1,215	1,215	1,252	1,398
入所児童数	1,003	1,110	1,230	1,290	1,256	1,317
待機児童数	80	22	57	97	74	39

※入所児童数には5月以降の入所児童数を含めない

■ 学童保育利用児童数の推移

各年4月

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
定員数	520	520	520	560	560	560
1年	201	203	212	240	233	245
2年	152	183	168	206	200	225
3年	115	112	107	85	117	83
4年	0	11	32	25	7	2
5年	0	1	2	2	0	0
6年	0	0	1	0	0	0
待機児童数	0	33	65	93	108	153

(2) 福祉

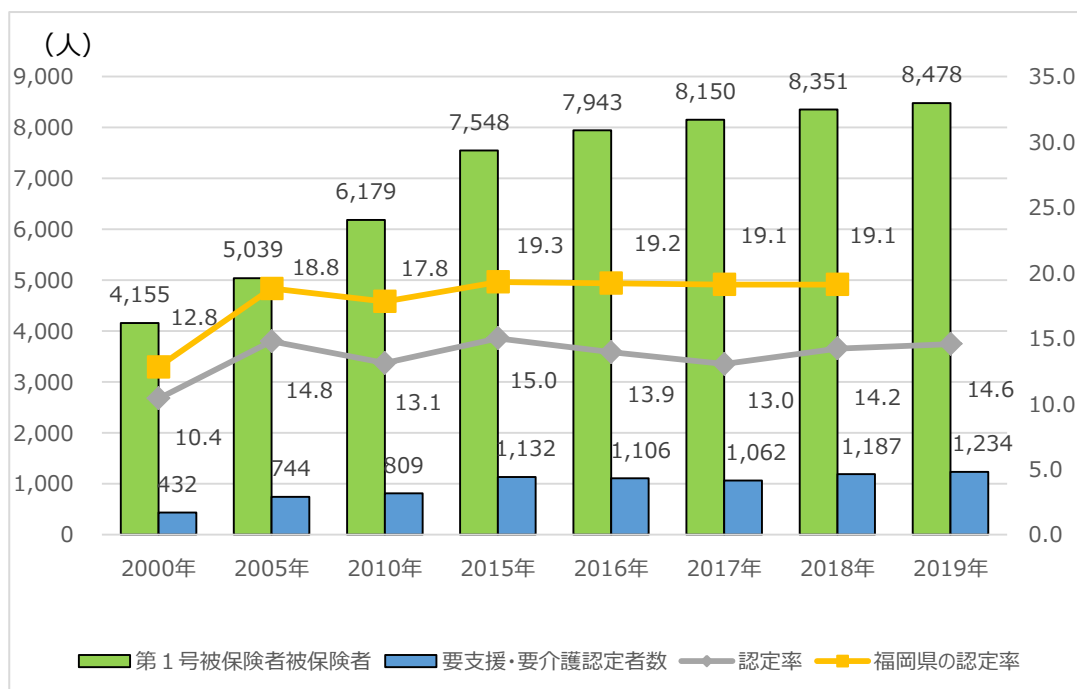
① 高齢者数と介護保険認定者数の推移

- 高齢者数（第1号被保険者数）と介護保険認定者数はともに増加傾向となっています。
- 認定率は福岡県の認定率を下回り推移しており、2015（平成27）年以降横ばいとなっています。

■ 要支援・要介護認定者数の推移

		2000年	2005年	2010年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
第1号被保険者 被保険者		4,155	5,039	6,179	7,548	7,943	8,150	8,351	8,478
要支援・ 要介護 認定者数	要支援1	58	161	108	230	202	163	160	171
	要支援2			127	120	111	89	102	124
	要介護1	155	231	131	255	245	235	283	304
	要介護2	54	85	121	150	172	171	209	203
	要介護3	63	95	138	137	138	134	144	162
	要介護4	55	85	96	127	135	165	159	162
	要介護5	47	87	88	113	103	105	130	108
	計	432	744	809	1,132	1,106	1,062	1,187	1,234
認定率		10.4	14.8	13.1	15.0	13.9	13.0	14.2	14.6
福岡県の認定率		12.8	18.8	17.8	19.3	19.2	19.1	19.1	-

【資料】粕屋町「町勢要覧」



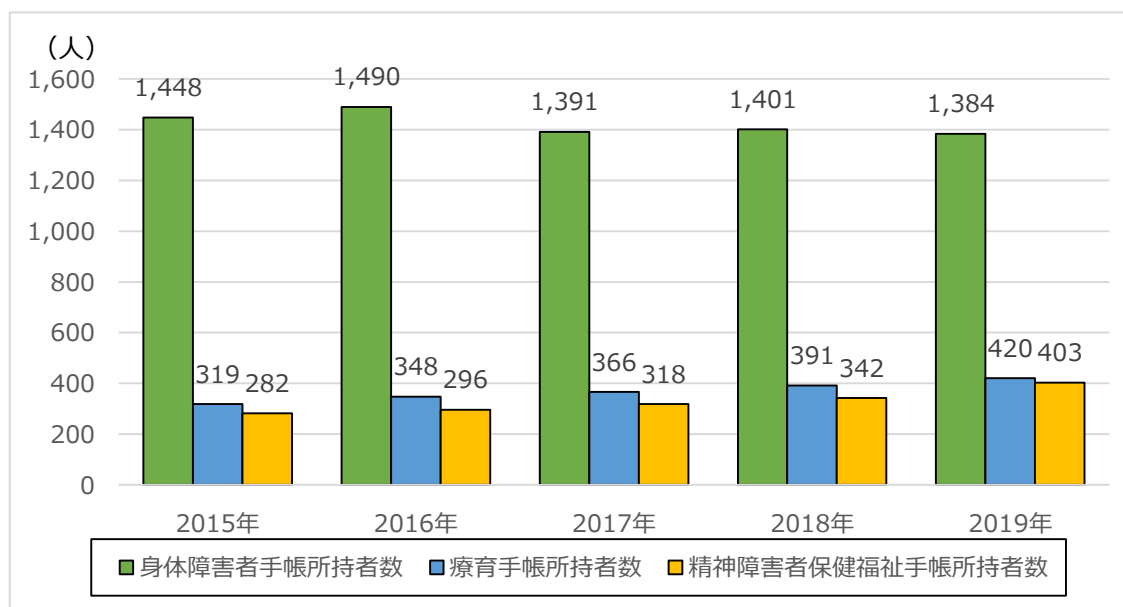
②障害者手帳所持者の状況

- 障害者手帳所持者の状況は、身体障害者手帳¹所持数は減少傾向にありますが、療育手帳²所持者数、精神障害者保健福祉手帳³所持者数は増加傾向にあります。

■ 障害者手帳所持者数の推移

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
身体障害者手帳所持者数	1,448	1,490	1,391	1,401	1,384
療育手帳所持者数	319	348	366	391	420
精神障害者保健福祉手帳所持者数	282	296	318	342	403

【資料】粕屋町町勢要覧



¹ 身体障害者手帳：身体障がいのある人に交付される手帳。

² 療育手帳：知的障がいのある人に交付される手帳。

³ 精神障害者保健福祉手帳：精神疾患のある人に交付される手帳。

(3) 医療

① 医療施設・医療従事者数

- 粕屋町には、一般病院が3カ所、一般診療所が26カ所、歯科診療所が21カ所あります。
- 一般診療所数、医師数とも増加しています。

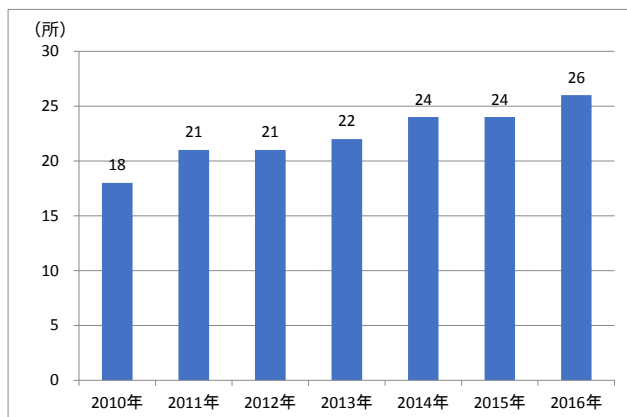
■ 周辺エリアの病院・診療所数、医師数・薬剤師数の状況比較

2016年

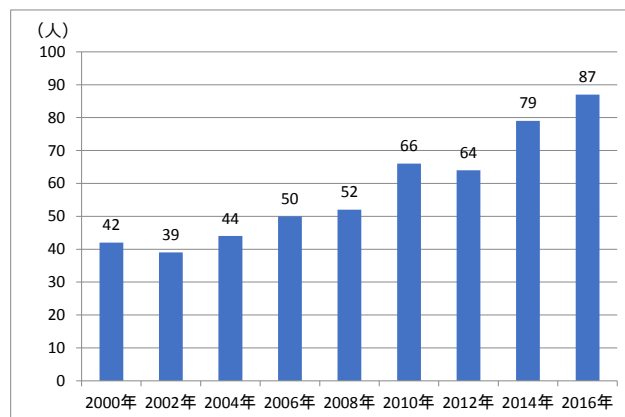
	一般病院数 (施設)	一般 診療所数 (施設)	歯科 診療所数 (施設)	医師数 (人)	歯科医師数 (人)	薬剤師数 (人)
福岡市	102	1,528	1,013	6,027	2,178	4,540
粕屋町	3	26	21	87	36	79
宇美町	3	16	16	32	27	41
篠栗町	4	13	8	57	14	31
志免町	4	35	22	100	44	87
須恵町	2	11	7	32	12	26
新宮町	2	28	13	42	18	65
久山町	1	7	4	10	6	22
福岡県	400	4,654	3,095	15,997	5,477	11,794

【資料】統計でみる市区町村のすがた 2019

■ 粕屋町の一般診療所数の推移



■ 粕屋町の医師数の推移



【資料】厚労省「医療施設動態調査」

(4) 生活保護

①生活保護受給状況

●糟屋郡の生活保護受給状況をみると、被保護人員数は4,133人、保護率は17.99%となっています。

■県内市町の生活保護率（人口千人当たりの被保護人員数）

2019年4月現在

	被保護人員数 (人)	保護率(‰)
大牟田市	3,978	35.1
直方市	1,771	31.5
飯塚市	5,675	44.5
田川市	2,718	57.5
柳川市	812	12.4
八女市	520	8.4
筑後市	228	4.7
大川市	340	10.1
行橋市	1,392	19.6
豊前市	225	9.0
中間市	1,281	31.6
小郡市	369	6.3
筑紫野市	1,432	14.0
春日市	1,238	11.1
大野城市	1,129	11.2
宗像市	936	9.6
太宰府市	868	12.0
古賀市	701	12.0
福津市	573	9.1
うきは市	414	10.4
宮若市	973	35.6
朝倉市	433	8.6
嘉麻市	2,257	61.6
みやま市	345	9.4
糸島市	782	8.0
筑紫郡	723	14.4
糟屋郡	4,133	17.9
宗像・遠賀	2,609	28.4
嘉穂・鞍手	1,577	43.9
田川郡	8,076	109.2
北筑後	430	9.2
南筑後	314	9.3
京築	2,156	24.7

【資料】福岡県生活保護速報

6. 財政

(1) 財政状況

- 歳入においては、自主財源の町税は年々増加していますが、社会保障費¹の増加により国・県支出金が増加しています。
- 歳出においては、社会保障費の増加に伴う扶助費²の増加がみられます。

■歳入構成の推移

(単位：百万円)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
自主財源	町税	5,522	5,611	5,883	6,064	6,238	6,474
	繰入金	399	353	680	4	452	442
	その他	1,059	1,271	1,299	1,423	1,395	1,187
依存財源	町債	790	1,100	1,078	980	618	876
	地方交付税	1,210	1,170	1,300	1,150	1,000	930
	国・県支出金	2,644	2,745	2,769	2,826	2,895	3,484
	その他	653	849	927	1,037	1,033	1,205
合計		12,276	13,098	13,937	13,484	13,631	14,597

■性質別歳出構成の推移

(単位：百万円)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
消費的経費	人件費	1,710	1,798	1,757	1,772	1,813	1,849
	物件費	2,473	2,659	2,722	2,746	2,792	3,106
	扶助費等	2,891	2,893	3,334	3,469	3,752	4,108
	補助費等	2,070	2,207	2,078	1,987	1,918	1,859
投資的経費	普通建設事業費	900	1,288	1,737	1,131	1,019	1,364
その他	公債費	1,186	1,041	1,034	1,143	1,086	1,065
	繰出金等	1,047	1,212	1,275	1,237	1,250	1,246
合計		12,276	13,098	13,937	13,484	13,631	14,597

【資料】粕屋町「平成 31 年度わかりやすい予算書」

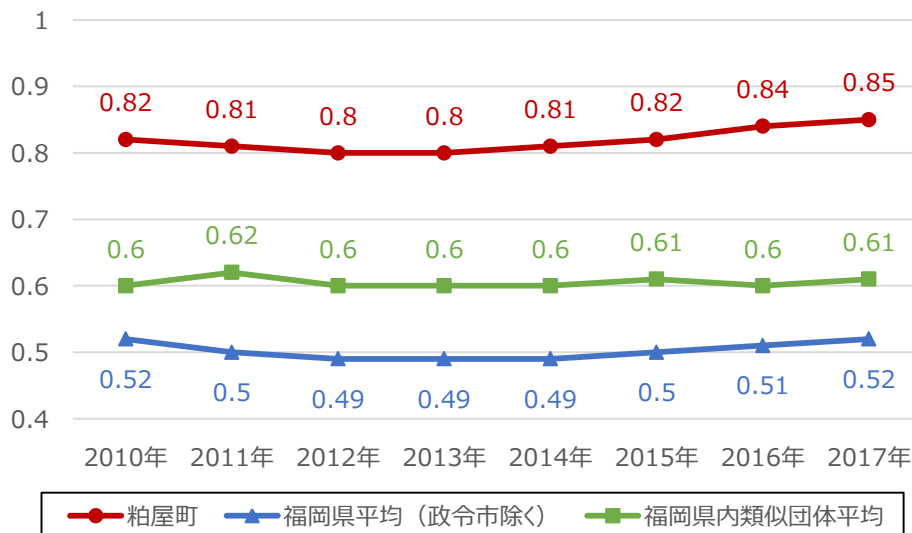
¹ **社会保障費**：医療・介護の自己負担分以外の給付額や年金の受給額など、社会保障制度によって国や地方公共団体から住民に給付される費用。

² **扶助費**：社会保障制度の一環として、児童・高齢者・障がい者・生活困窮者などに対して国や地方公共団体が行う支援に要する経費。

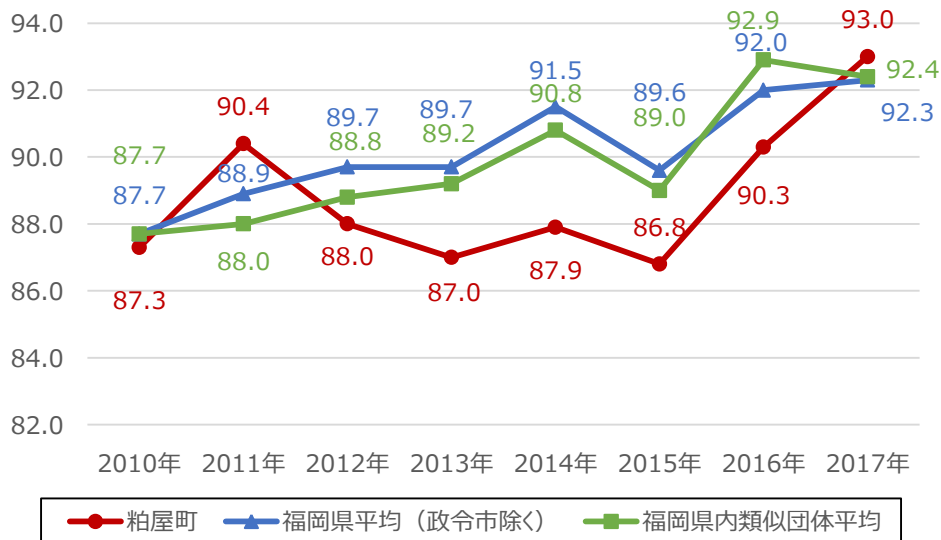
- 粕屋町の財政力指数¹は福岡県平均、福岡県内の類似団体平均に比べ健全な値を示しています。
- 実質公債費率²及び将来負担比率³は改善していますが、財政の柔軟性をあらわす経常収支比率⁴は、依然として高い値を示しており、財政の硬直化が進んでいる状況です。

■ 財政状況（県内比較）

■ 財政力指数



■ 経常収支比率



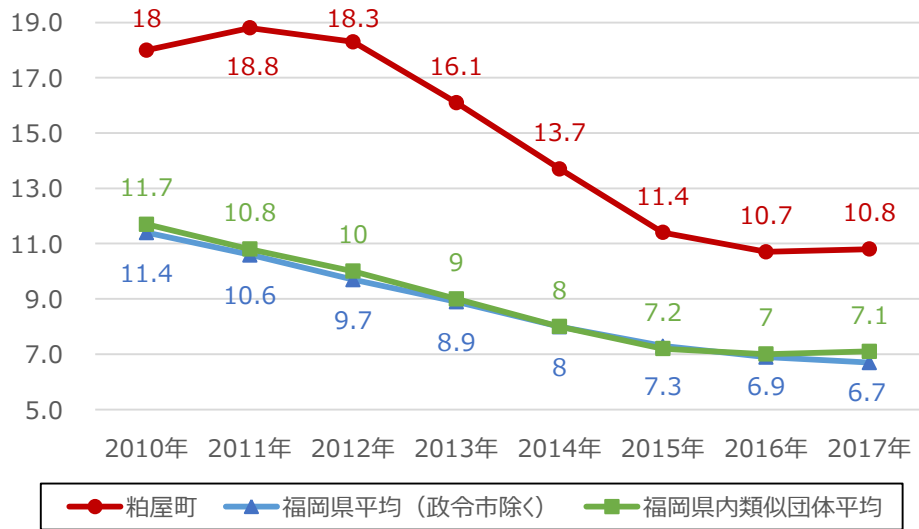
¹ 財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指標で、1に近い（あるいは1を超える）ほど余裕があるとされる。

² 実質公債比率：自治体の財政状況の健全度を示す指標のひとつで、地方債の元利償還金に充てる一般財源の割合で18%以上になると地方債の起債をするのに県の許可が必要になる。

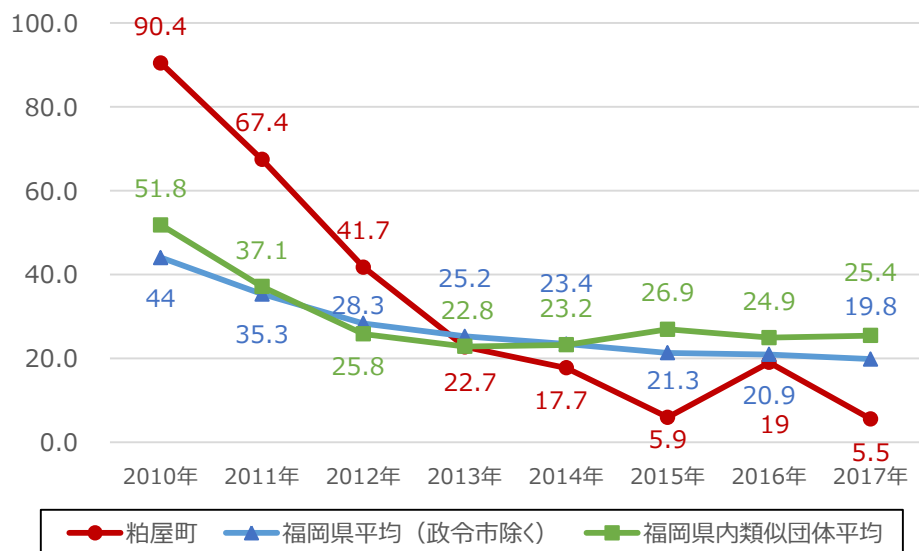
³ 将来負担比率：自治体の財政状況の健全度を示す指標のひとつで、将来負担すべき実質的な負担額が、自治体の一般財源の規模に占める割合で、早期健全化基準（350%）を上回る場合は「財政健全化計画」を定める必要がある。

⁴ 経常収支比率：自治体の財政構造の柔軟性を示す指標で、この比率が低いほど政策的に使えるお金が多くあることを示す。

■ 実質公債費比率



■ 将来負担比率



【資料】粕屋町「平成 31 年度わかりやすい予算書」